



勇建設株式会社 環境報告書

Environmental Report 2025

さっぽろふるさとの森協定 手稲山口緑地（札幌市手稲区）

ゼロカーボン社会の実現を推進します

勇建設株式会社は、昭和31年4月に社員20数名をもって創業して以来、69年の年月を北海道における社会資本整備を通じて地域社会の発展に寄与してまいりました。

当社が経営理念とする「堅実な経営」と「誠実な施工」に努め、「技術力と総合力の向上」を目指して、港湾建設工事をはじめとして土木全般にわたり事業を展開しております。

環境マネジメントシステムは、平成16年12月22日にISO14001認証を取得し、今年で21年が経過いたしました。

その間、事業活動を通じて自然との共生に努め、環境保全に取り組み、地域社会の期待と要請に応えてまいりました。

また、勇建設㈱では、10数年前からCSRを取り入れた企業経営を進めており、「世の中をよりよくしていくことで、企業もいっしょに発展していこう」という考え方のもと、コンプライアンスの徹底や安全・品質の確保、社会貢献活動等とあわせて、環境基本方針を定めて、環境保全活動を一層推進してきました。

とりわけ、世界的な課題である温室効果ガス対策について、当社では環境方針のもとISO14001シリーズを認証取得し、電気やガス使用量の削減、ハイブリッドカーの導入など、主に事業活動で排出される温室効果ガスを減らす取組を推進してきました。

政府は2020年10月に「カーボンニュートラル」を宣言し、北海道では「ゼロカーボン北海道」として、2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにすることを目指して取り組みを進めています。

当社においては、これらの実現を推進していくため、令和5年度より森林の育樹活動やグリーンカーテンの設置など、温室効果ガスの吸収量を増やしていく取組などに幅を広げました。

また、深刻化する食品ロス問題への対応として、令和6年度よりフードバンク活動への支援を開始しました。食品の廃棄削減を通じた環境負荷の低減と、地域社会への貢献を両立する新たな取り組みとして推進してまいります。

これからも、持続可能な循環型社会の形成に貢献するという信念を持ち、環境活動を引き続き実践していく所存であります。

ここに、2024年度の環境活動を「勇建設株式会社 環境報告書2025」として、取りまとめました。

ご一読いただき、皆様のご理解とご支援、忌憚のないご意見を頂ければ幸いです。



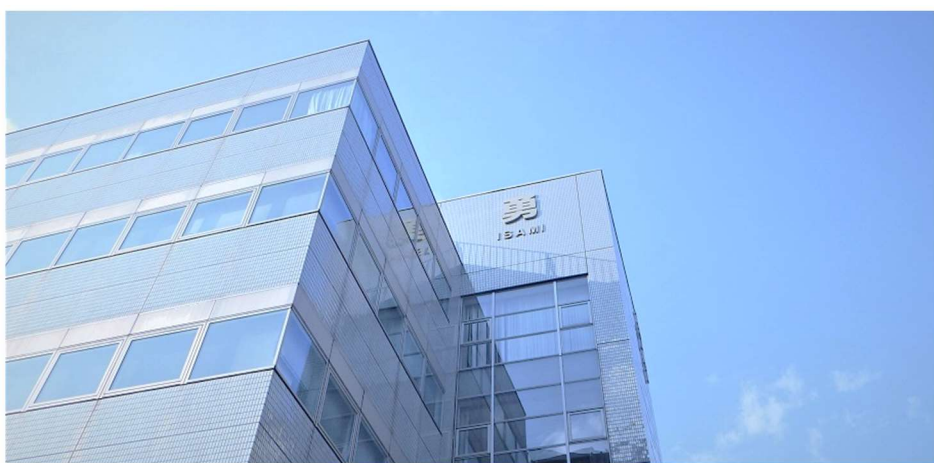
2025年7月1日

勇建設株式会社 代表取締役社長 坂 昭弘

CONTENTS

社長あいさつ

1)会社概要	P 3
2)環境マネジメントシステム	P 4
・勇建設環境方針	
・ISO14001 登録内容	
・ISO14001 登録履歴容	
3)2024(R6)年度 環境活動報告	P 5
・重点実施事項 1. 建設 DX の推進	P 6
・重点実施事項 2. 環境負荷低減に資する地域貢献活動	P 9
・オフィス業務目標 オフィス業務における環境負荷低減活動	P13
・工事施工業務目標 作業所における環境負荷低減活動	P15
4)「ゼロカーボン北海道」の実現に向けた取組	
・これまでの取組	P17
・新たな取組「フードバンクプロジェクト」	P18
5)工事施工時の環境への配慮	
・周辺環境への配慮	P19
・地域貢献活動	P20



1)会社概要



会社概要

(2025年4月1日現在)

会社名	勇建設株式会社
設立	1956年4月(昭和31年4月)
資本金	1億円
代表者	代表取締役会長 坂 敏弘 代表取締役社長 坂 昭弘
本社	北海道 札幌市中央区北6条西14丁目4番地 電話 011-221-0171(代表)
釧路営業所 (帯広兼務)	北海道 釧路市若松町14番2号 電話 0154-23-5495
網走営業所	北海道 網走市緑町4番7-2 電話 0152-44-7248
室蘭営業所	北海道 室蘭市舟見町1丁目5番11号 電話 0143-24-5566
小樽営業所	北海道 小樽市富岡1丁目18番28号 電話 0134-23-1625
従業員	90名
関連会社	北弘機工株式会社 ・ 北勇産業株式会社



2)環境マネジメントシステム



勇建設環境方針

自然との共生に努め、環境保護・環境保全に貢献するため、以下の活動を積極的に実施する。

1. 環境パフォーマンス向上を目指し、環境マネジメントシステムを運用、維持し、継続的改善を図る。
2. 当社の事業活動の全ての段階で環境に与える影響を全従業員が認識し、環境負荷の低減と汚染の予防を目指し、環境保護・環境保全活動を実践する。
3. 環境に関連する法規制、顧客及び地域社会等の要求事項を順守し、地域社会との協調に努める。
4. 当社の環境活動に関わる環境保護・環境保全行動で、次の項目の環境目標を設定し展開し、必要時に見直す。
 - (1) 工事施工における環境負荷の低減
 - (2) オフィス業務における環境負荷の低減

2003年12月12日制定

2018年 9月 1日改訂

ISO14001 登録内容

審査登録機関	北日本認証サービス(株)<NJCS>
登録番号	NJE-017
初回登録日	2004年12月22日
NJCS 登録日	2007年7月24日
有効期限	2025年12月21日
適用規格	ISO14001:2015(JIS Q 14001:2015)
登録範囲	建築(土木)に係る事業活動

ISO14001 登録履歴

2004年 4月	環境マネジメントシステム運用開始
12月	ISO14001:1996年版 認証取得『登録機関:SCOPE-MS』
2005年12月	ISO14001:2000年版 移行
2007年 7月	『登録機関:北日本認証サービス(株)』へ登録移行
	毎年外部審査を実施 (略)
2016年 9月	ISO14001:2015年版 移行
	毎年外部審査を実施 (略)

3)2024(R6)年度 環境活動報告



勇建設株式会社では、環境方針のもと全従業員が環境保全行動に取り組むため、当社の事業活動で環境に与える影響を認識し、オフィス業務部門、工事施工部門各々に環境目標を設定し、環境負荷を低減する努力を重ねています。また、紙・電力・都市ガス等における使用量の削減についても、日常の維持管理活動として取り組んでいます。ここに、2024(R6)年度の主な環境への取り組みをご紹介します。

年度 環境目標

環境負荷の低減をいっそう進め、「ゼロカーボン北海道」の実現を推進する。

重点実施事項

1. 建設 DX の推進

i-Con の取組推進

3次元による起工測量と設計、施工、出来形管理等の取組により省人化を進める

WEB カメラの活用

遠隔臨場による段階確認や出来形確認等の社内検査の実施、定点カメラによる異常気象時の現場状況の把握等、WEB カメラを活用し省人化を進める

建設ディレクターの導入

デジタル技術を活用した工事書類の一元管理等による、現場支援を通して工事の生産性向上を推進する

2. 環境負荷低減に資する地域貢献活動

・「グリーンカーテン」の設置

・「さっぽろふるさと森づくり協定」に基づく育樹活動

・「さっぽろ水源の森づくり」への参加

・「海のクリーンアップ大作戦」への参加

オフィス業務目標

オフィス業務における環境負荷低減活動「エネルギー消費量の削減」

・電気、都市ガス、水道、灯油等のエネルギー消費量の削減

・自動車の燃費向上に向けたエコドライブの推進

・コピー用紙使用量の削減に向けたペーパーレスの促進

・3R の推進

工事施工業務目標

作業所における環境負荷低減活動

・工事施工における CO2 削減への取組チェックリストに基づく取組の推進

重点実施事項 1. 建設 DX の推進

i-Con の取組推進

3次元による起工測量と設計、施工、出来形管理等の取組により省人化を進める

(目標値:取組実施作業所数 80%以上)

評価

i-Construction の取り組みは、建設現場の作業効率を大きく向上させる重要な取り組みとして進めています。令和6年度は 12 作業所のうち 11 作業所（実施率 91%）で実施し、目標としていた 80%を大きく上回ることができました。これは、当社が積極的に ICT 施工に取り組んでいることを示しています。

本取り組みによる効果：

- ・ 3次元測量による起工測量の効率化
- ・ 設計データの高度な活用
- ・ 施工精度の向上
- ・ 出来形管理の効率化と品質向上
- ・ ICT 建機を活用した施工による省人化

特に、この技術の活用が必要な現場や、効果が期待できる現場では、すべて実施することができました。



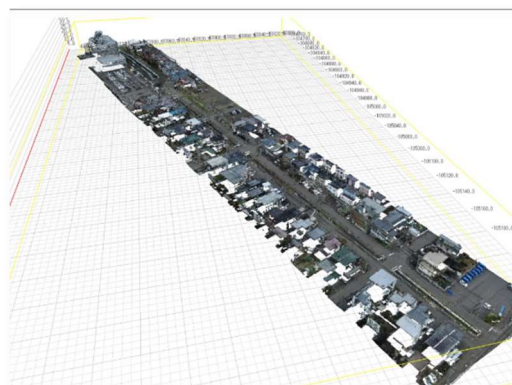
快速ARの活用



3DチルトMCモニター表示



レーザードローンのによる UAV 測量



測量結果

WEB カメラの活用

- ・遠隔臨場による段階確認や出来形確認等の社内検査の実施、定点カメラによる異常気象時の現場状況の把握等、WEB カメラを活用し省人化を進める

(目標値:取組実施作業所数 80%以上)

評価

WEB カメラの活用は、省人化を進める取り組みとして実施しています。令和6年度は12作業所のうち11作業所（実施率91%）で導入し、目標としていた80%を大きく上回ることができました。

本取り組みによる効果：

- ・悪天候時における迅速な現場状況把握の実現
- ・遠隔臨場による、発注者との段階確認の効率化
- ・遠隔にて社内検査を実施し、本社からの移動削減による業務効率の向上と CO2 排出量の低減
- ・作業負担の軽減による働き方改革への貢献



Safie を利用した WEB カメラ



ビデオ通話を利用し発注者と遠隔にて検査を実施



現場(生コン工場)と本社において、遠隔にて社内検査を実施

建設ディレクターの導入



デジタル技術を活用した工事書類の一元管理等による、現場支援を通して工事の生産性向上を推進する

(目標値：取組実施作業所数 1 作業所以上)

評価

建設ディレクターの導入は、各作業所で共通する業務をインターネット上のクラウドサービスを利用し本社で書類を作成し、現場の負担軽減を図る重要な取り組みとして始めました。

令和 6 年度 建設ディレクターによる現場支援

①厚別西川作業所

- ・ 施工体制台帳等の作成業務

本社において施工体制台帳の作成業務を行いました。これにより、目標としていた「1 作業所以上での実施」を達成することができました。

令和 6 年度は新たに 2 名が資格を取得し、資格保有者は合計 5 名となりました。



企業におけるファイルを
保管、整理、管理、監査、共有
などができるセキュアで
高機能なクラウドサービス



重点実施事項 2. 環境負荷低減に資する地域貢献活動

グリーンカーテンの設置

(勇建設グリーンカーテンプロジェクト)

評 価

この取り組みは、植物による CO2 の吸収と夏の強い日差しをグリーンカーテンにより和らげることで、エアコンの使用を抑え、電気の使用量と CO2 の排出を減らすことを狙いとし、令和6年度は、6つの作業所でグリーンカーテンを設置しました。

CO2 吸収、CO2 排出量の抑制のほか、植物の持つ自然の冷やす効果で、周辺の気温上昇を抑える効果も期待できます。さらに、緑のカーテンがあることで、作業所で働く人々や訪れる方々に、やすらぎのある気持ちの良い空間を提供することができました。

令和6年度工事における、グリーンカーテンの設置状況

- | | |
|-------------|---------------|
| ①厚田増殖場作業所 | ②屯田茨戸道路作業所 |
| ③白老人工リーフ作業所 | ④新千歳 RESA 作業所 |
| ⑤厚別西川作業所 | ⑥厚岸漁港作業所 |



さっぽろふるさとの森づくり協定育樹活動



評価

手稲区山口緑地での森づくり活動として、計画通り 6 月に下草刈り、10 月には枯れ枝払いを実施しました。定期的な下草刈りなどの手入れを行うことで、緑地が健康的に育つよう支援しています。この森づくりの取り組みは、地域の自然を守り、都市部の緑を増やすことにつながっています。また、木々が育つことで CO2 を吸収する効果も期待できます。

この活動は、3,000 平方メートルという広い範囲で行っており、令和 4 年度から令和 8 年度までの 5 年間、継続して取り組んでいく予定です。

1) 夏季活動

日時 令和 6 年 6 月 18 日（火）9 時 30 分から

参加者 16 名参加（作業所：屯田茨戸道路作業所、厚別西川作業所）

2) 秋季活動

日時 令和 6 年 10 月 15 日（火）13 時 30 分から

参加者 11 名参加（作業所：屯田茨戸道路作業所、厚別西川作業所、新川 2 工区作業所）



さっぽろ水源の森づくりイベント参加



評 価

今年で3回目の参加となった「札幌水源の森づくり 2024」は、札幌市民の暮らしに欠かせない水道水に深く関わる活動です。札幌市の水道水の98%は豊平川から供給されており、その水源となる森を守り育てていく大切な取り組みとなっています。

この活動に参加することで、水を蓄え、きれいにする森の働きを守ることができます。また、森に住む多くの生き物たちの環境を守ることにもつながっています。継続的な参加を通じて、地域の大切な水源の森づくりに貢献していきたいと考えています。

日時 令和6年8月24日（土）10時00分から

参加者 12名参加



海のクリーンアップ大作戦 イベント参加



評 価

令和6年度は、これまでの札幌近郊での活動に加えて、室蘭と網走でも清掃活動を行いました。活動の場所を広げることで、より多くの地域の海をきれいにすることができました。

各地域での活動を通じて、北海道の美しい海を守る大切な取り組みとして、今後も続けていく予定です。

日時 令和6年5月15日（水）10時00分から

場所 全道3か所にて参加

①小樽ドリームビーチ会場（計10名） 本社・厚田増殖場作業所



②常呂海水浴場会場（計2名） ・網走営業所・ウトロケーソン作業所



③イタンキ浜会場（計3名） ・室蘭営業所・白老人エリーフ作業所



オフィス業務目標 オフィス業務における環境負荷低減活動

目標:CO2 排出量削減(昨年度比 3%減)



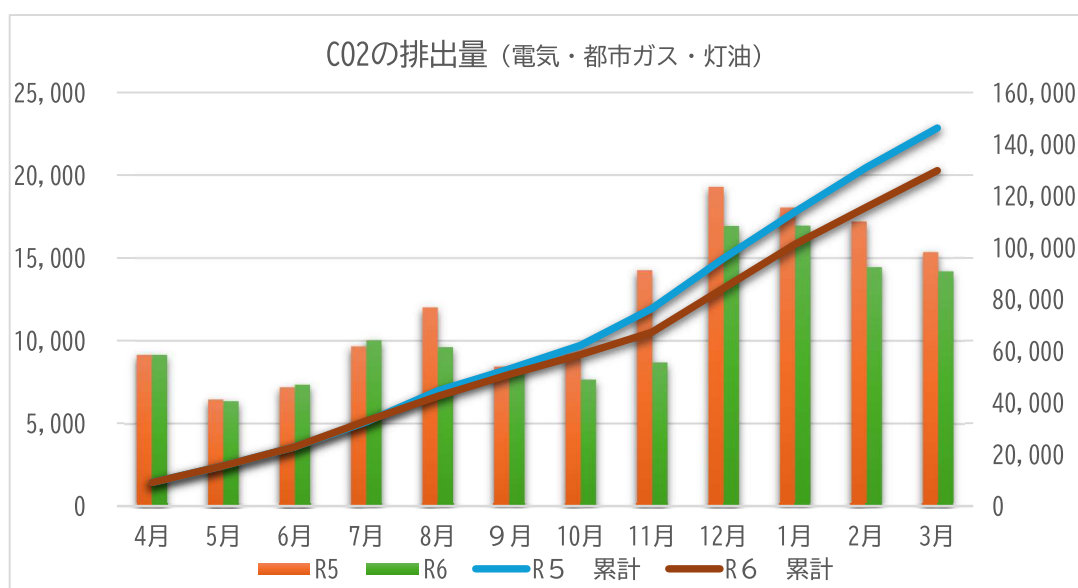
項目	令和5年度 3月末評価時	令和6年度 3月末評価時	差	昨年度比
電気	119,304kWh (63,589kg/CO2)	117,468kWh (62,610kg/CO2)	△1,836kWh (△979kg/CO2)	△ 1.5%
都市ガス	31,095 m ³ (63,741kg/CO2)	26,878 m ³ (52,539kg/CO2)	△4,217 m ³ (△11,202kg/CO2)	△13.0%
灯油	7,567L (18,940kg/CO2)	6,587L (14,619kg/CO2)	△980 L (△4,321kg/CO2)	△13.0%
合計	146,270kg/CO2	129,768kg/CO2	△16,502kg/CO2	△11.3%

「原油換算エネルギー使用量・温室効果ガス排出量算定シート」の係数による(令和6年度提出用係数による提出数値)
算定シートの単位は「t」で出るが、北海道に提出しているkg換算としてシートを使用し算出。
累計での計算と、月ごとの積み重ねで計算すると差異が出るが、月ごとでの比較とする。

評価

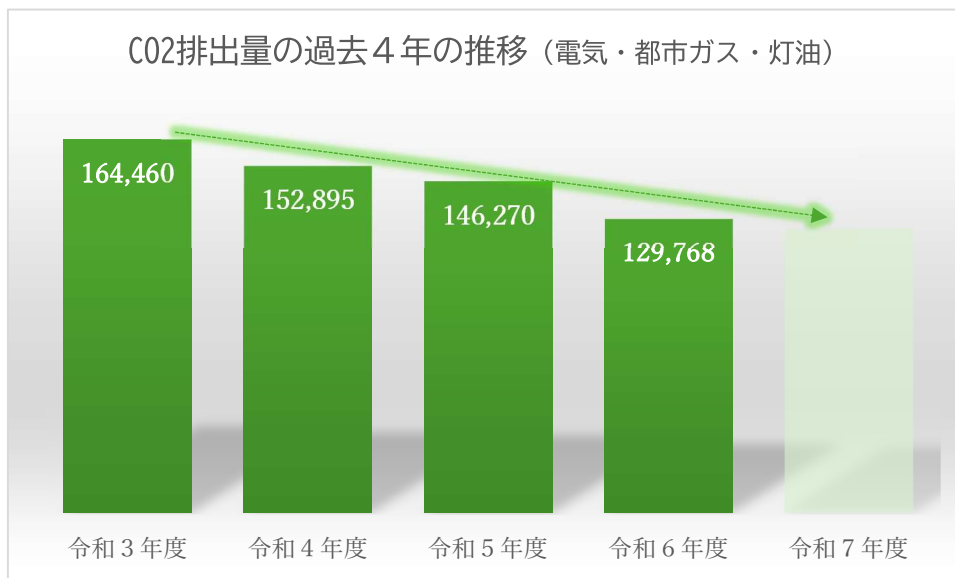
令和6年度のCO2排出量削減では、目標としていた昨年昨年度比3%削減を大きく上回り、約11.3% (16,502kg/CO2) の削減を達成することができました。

項目別に見ると、特に都市ガスの使用量を前年より4,217 m³ (11,202kg/CO2) 減らすことができました。また、電気使用量についても1,836kWh (979kg/CO2)、灯油についても980L (4,321kg/CO2) 減らすことができ、全ての項目において着実な削減を達成することができました。



過去4年間の推移をみても CO2 排出量は着実に減少傾向を示しており、特に令和 6 年度は大幅に削減し、4 年間で約 34,692kg (21.1%) の削減を達成しています。

省エネ活動や職員の環境に対する意識改善の効果が表れていると考えられます。



自動車の燃費向上に向けたエコドライブの推進

自動車燃料向上に向け、アイドリングストップの推進や、急発進・急ブレーキの抑制を意識し、エコドライブを推進しました。

コピー用紙使用量の削減に向けたペーパーレスの促進

用紙使用量削減に向け、書類の電子化やクラウドサービスを利用した書類共有によりペーパーレス化を推進し、また、可能な範囲での裏紙として再利用しコピー用紙使用量を抑制しました。

3R の推進

本社各部署、作業所等で余剰になった文房具や、再利用が可能な文房具を集め、新品を購入せずに再利用するなどにより、3R活動に積極的に取り組んでいます。

<3R>

リデュース（物を大切に使いごみを減らす）

リユース（使えるものは繰り返し使う）

リサイクル（資源・エネルギーとして再利用する）



工事施工業務目標 作業所における環境負荷低減活動

目標:CO2 削減への取組チェックリストに基づく取組の推進

(昨年度以上実施)



評価

この取り組みは、北海道開発局が作成している「環境家計簿」の項目（33 項目）に、当社独自の 4 項目を加えた合計 37 項目について、環境への負担を減らす活動として実施しています。

実施項目数の推移を見ると、令和 3 年度は平均 7.0 項目、令和 4 年度、5 年度は平均 10.4 項目でしたが、令和 6 年度は平均 11.3 項目まで増加させることができました。令和 3 年度と比べると約 61%増加しており、現場での環境への意識が着実に高まってきていることが分かります。

特に、新千歳 RESA 作業所での 16 項目、落石漁港作業所での 14 項目など、積極的な取り組みが見られ、目標としていた「昨年度以上の実施件数」も達成することができました。今後も、ソーラーパネルの利用やタブレット端末によるペーパーレス化など、効果的な取り組みを継続・拡大していきたいと考えています。

過年度実績

年度	実施項目数
令和 5 年度	平均 10.4 項目
令和 4 年度	平均 10.4 項目
令和 3 年度	平均 7.0 項目

令和 6 年度実績

No.	作業所名	取組数	No.	作業所名	取組数
1	新中原南地区	11 項目	7	ウトロケーソン	6 項目
2	屯田茨戸道路	10 項目	8	白老人工リーフ	12 項目
3	厚別西川	12 項目	9	石狩湾新港用地	7 項目
4	新千歳 RESA	16 項目	10	厚岸漁港	10 項目
5	新千歳美沢函渠	9 項目	11	落石漁港	14 項目
6	厚田増殖場	6 項目	平 均		11.3 項目



移動式簡易計量器を使用



計測状況



ソーラーシステムを利用した休憩所



蓄熱状況を管理



間伐材を利用した工事看板



インタラクティブボードを使用しペーパーレス化



ソーラーパネルを利用した安全標識



カーボンオフセット付産廃業者と契約

4)「ゼロカーボン北海道」の実現に向けた取組

Environmental
Report 2023

これまでの取組

2004(H16)年	ISO14001の取得 さっぽろエコメンバー登録
2010(H22)年	小学校周辺清掃奉仕作業への参加(宮の森小学校) 河川美化活動への参加(鴨々川清掃)
2015(H27)年	勇建設コミュニティーガーデン活動開始
2016(H28)年	創立60周年記念事業植樹活動(大通公園4丁目・ライラック植樹) ウトナイ湖環境保全活動開始
2017(H29)年	ハイブリットカー導入開始 植樹活動(小金湯さくらの森)
2019(R1)年	いさみ号エンジン載せ替え(A重油から軽油へ変更)
2020(R2)年	4Rの推進開始(再利用棚の設置)
2021(R3)年	札幌市生物多様性さっぽろ応援宣言への登録
2022(R4)年	ゼロカーボン北海道チャレンジプロジェクト登録 北海道クールアースデー参加 北海道グリーンビズ認定登録 さっぽろふるさとの森づくり協定締結、活動開始 ゼロカーボンチャレンジャー登録 植樹活動(小金湯さくらの森)
2023(R5)年	グリーンカーテンプロジェクト開始 Hokkaido海のクリーンアップ大作戦への参加
2024(R6)年	フードバンクプロジェクト開始



本社近郊 桑園地区における清掃活動



ウトナイ湖における環境保全活動

フードバンクプロジェクト開始



寄付先 フードバンク イコロさっぽろ<令和6年10月30日(水)締結>

新たな活動として、食品ロス削減の日(消費者庁制定)に合わせて「フードバンク イコロさっぽろ」と寄贈品に関する合意書を締結し、11月13日に初回寄付を実施しました。社内でフードドライブを実施し、定期的に寄付を実施しています。

この活動では、まだ食べられる食品を必要としている方々にお届けすることで、食品の無駄な廃棄を減らすことができました。食品を廃棄せずに活用することは、廃棄物処理の際に出る温室効果ガスの削減にもつながっています。

また、フードドライブ BOX を1階の正面玄関に常設したことで、いつでも食品を寄付できる環境が整い、社員一人一人が食品ロスについて考えるきっかけにもなりました。

令和6年度は延べ5回の寄付を行うことができ、継続的な活動として定着してきています。



イコロ代表片岡さんと坂社長



BCP 備蓄での余剰品を提供



職員から募ったフードドライブ品



常設のフードドライブ BOX(本社正面玄関前)

5) 工事施工時の環境、地域への配慮

作業所では、工事により発生する騒音や振動を可能な限り小さくするため、低騒音・低振動型の重機を使用するとともに、騒音・振動計を設置してリアルタイムで計測し周辺環境に与える影響を低減しています。また、地域への貢献活動にも積極的に取り組んでおりますので活動の一部を、ご紹介します。

環境への配慮



無騒音・無振動のサイレントパイラーを使用し、鋼矢板を打込み騒音・振動の発生を低減



ICT 建機での施工により、従来機に比べ燃料消費量を約15%削減できCO2排出量を削減



鋼製水槽内にモールコードを設置し、河川下流域への濁水流出を防止

地域貢献活動



厚別町内会子供神輿運営手伝い



屯田北自治会夏祭り会場設営手伝い



歯舞昆布まつり運営手伝い



厚別小学校の駐車場の整地

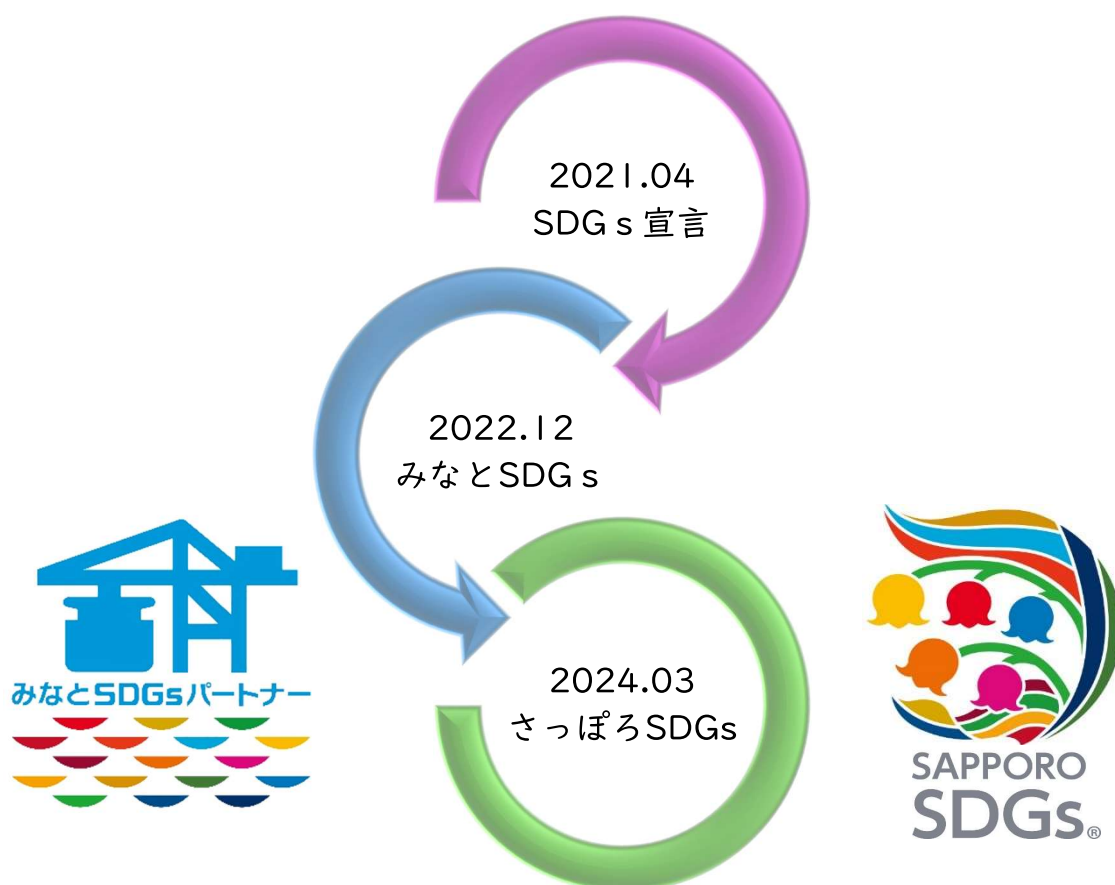


千歳ウェルカム花ロードの設置



近隣の民家や工事区域外の市道を除雪

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



環境報告書2025(2024年度活動報告書)

問い合わせ先/勇建設株式会社 安全品質環境部 TEL/011-221-0171 FAX/011-231-0209